

平成21年度大津市事務事業評価（二次評価）事業仕分け結果

班 別	第2班	時 間	15:45~16:30
事業番号	16	所管部課名	福祉子ども部保育課
事業名	子育て総合支援センター事業		
事業仕分け結果	(4)市実施 内容・規模見直し		
内 訳	(1) 不要	—	
	(2) 国及び県実施	—	
	(3) 市実施 現行通り	—	
	(4) 市実施 内容・規模見直し	3名	
	(5) 市実施 民間委託	2名	
	(6) 民営化(NPO、地域団体含む)	—	
<p>【事業仕分け判定に係る意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の職務の分担をはっきりすべきである。外部委託などの効率化を図って欲しい。</li> <li>・遊び場としての利用料金の徴収も検討すべきである。</li> <li>・子育て世代のニーズの把握が必要である。</li> <li>・行政コストの検討や本来の事業目的の再検討が必要である。</li> <li>・人件費の費用対効果の検討をすべきである。</li> <li>・自助、共助、公助を考える必要がある。</li> </ul>			

事業仕分け発言要旨	
コーディネーター・評価者	事業説明者・補助者
	・事業概要説明（省略）
・地域との連携はどのようなものがあるのか。	・子育て事業や研修自体の連携をしている。
・リピーターが多いが、その内訳等について調査はしているのか。	・市内の利用者が75%で市外が25%である。
・地域の子育て事業と中央のゆめっこ事業との違いは何か。	・センター事業として自主サークル支援や総合的な情報発信、関係課との事業の調整や研修、応援隊の事業やボランティアの養成や発達支援事業をしている。
・正規職員の14名は何をしているのか。	・センター事業と地域の子育て支援事業との連携調整であるネットワーク活動をしている。
・追加施設をあと2施設、建設するのか。	・次世代育成支援行動計画があり、地域の身近な施設である子育ての支援の現場があと2施設必要である。
・中央施設については直営とする必要があるのか。	・総合調整等の拠点は直営とする必要がある。

・事業費の委託は、どのような内容か。	・風の子保育園等に事業を委託している。
・地域の子育ての従業員数は何人か。	・7人である。
・他都市には少ないが、発達支援の専門の職員が現在、大津市にはいるのか。	・いる。
・ボランティアは何をしているのか。	・相談相手や野外の体験事業の援助をしてもらっている。
・現在、保育の待機児童は何人いるのか。	・95人いる。
・現在ある4施設は同時に建設されたのか。	・年次計画的に建設された。
・来場者の増加は何を根拠にしているのか。	・明確な根拠は無い。現状として市外の利用も多く、特に京都の山科や草津市の方の利用が多い。
・発達支援事業に今後、何が必要か。	・場所と人員が必要であり、空き教室を利用している現状である。
・情報を集めてみると遊び場としての利用が多く、この施設は遊び場であるという市民の認識がある。なぜかそのようなになったのか。	・施設ができてから、まだ日が浅く、施設の周知が必要であり、そういったPRが多いのが原因である。
(コーディネーター) ・臨時職員は主にどのような人か。	・主には保育士である。